



## CFI ニュースレター C2022-05 聖霊の働き

### [今月の聖書]

「御霊もまた同じように、弱い私たちを助けてくださる。なぜなら、私たちはどう祈ったら良いかわからないが、御霊自ら、言葉に表せない切なるうめきをもって、私たちのために執りなして下さるからである。」(ローマ 8: 26)

「すべて神の御霊に導かれているものは、すなわち、神の子である。御霊自ら、私たちの霊とともに、私たちが神の子であることを証して下さる。」(ローマ 8: 14、16)

「私は父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなた方と共におらせて下さるであろう。それは真理の御霊である。」(ヨハネ 14: 16)

「そして、あなた方の内に良い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるに違いないと確信している。…あなた方のうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。」(ペリピ 1:6、2: 13)

「兄弟たちよ。私はすでに捕らえたとは思っていない。ただこの一事をつとめている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かって体を伸ばしつつ、目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」(ペリピ 3: 13、14)

「私を強くして下さる方によって、何事でもすることができる。」(ペリピ 4: 13)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「聖霊の働き」と題して、信仰生活の最も大切な秘訣についてお話ししたいと思います。今年は1月より「祝福の秘訣」「祈りの秘訣」「賛美の力」「十字架の力」と語って参りました。今週はこれらのすべての秘訣の背後にあって、私たちに働きかけ、執り成し、力を与え、実現させて下さる聖霊に目を向けたいと思います。

私は熱心なクリスチャンホームに育ちました。イエス・キリストの救い、神の愛、信仰の素晴らしさについて聞いていたと思います。しかし青年時代になって自分の心の葛藤、すなわち自分が願っている善をすることができず、悪に引きずられていってしまう弱さ無力さに聖書は何の力も与えてくれないと思っていたのです。しかし1967年10月10日に不思議なキリストとの出会いを経験しました。ある牧師が私の心に「聖霊はあなたの人生が失敗することのないように導いてくださいます。聖霊に頼りなさい」と語られました。その時知識ではない、熱心ではない、努力ではない、聖霊の働きによって私は生きることができるという真理を発見したのです。

目に見えるもの、手で触れることができるものだけが真理ではありません。電気は見えませんが、電力によってランプが付き、電車が走る時、電気の実感することができます。私はあの日から私の内に電力のような聖霊の力が宿り、働き、導き、今日まで55年も力強く歩ませてくださったことに驚きをもつて感謝しています。

同様に信仰も、希望も、愛も見えませんが、聖霊によって確かなものとされるのです。「私は思う。今のこの時の苦しきは、やがて私たちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。実に、被造物全体が、今に至るまで、共にうめき共に産みの苦しみを続けていることを、私たちが知っている。」(ローマ 8: 18,22)と2000年前聖パウロによって書かれた言葉通りに、今世界は産みの苦しみを続けています。しかしここにも今は見えない確かな希望があることを聖霊によって私は確信しています。今月もこの聖霊の働きによって輝きに満ちた日々を過ごされますようにお祈りしています。

(お知らせ)

- \*ウクライナ支援募金を開始しました。5月3日 目黒区中小企業センターホールにてメサイア公演を致します。コンサートは無料ですが支援募金をいたします。ご協力をいただければ幸いです。また募金のためにウクライナピースカードを制作しました(100円)親しい方々への励ましの通信のために用いていただければ幸いです。
- \*コロナ感染状況が収まりませんのでもうしばらく地区集会は休会とさせていただきます。

「あなたはわたしのもの」

沢谷 千代子 (岐阜県)

高校卒業間近の頃、私は自分のこれからの生活について色々考えました。人生の最後を迎える時、後悔しない一生を送りたい。そうするにはどうしたら良いだろうか。そうだ真理がある筈だ。真理は一つしかない。真理に従えば後悔しなくても良い人生が送れると思い、それから私の真理探究が始まりました。

まず家族が信じていた新興宗教に入りその教えを徹底的に守りました。しかしずいぶん経って後、これは真理ではないと思わざるを得ない所が見つかりました。その次は、友人の信じていた、やはり新興宗教に入ってこれも徹底的に従いました。しかし、しばらくしてこれも真理ではないと思わざるを得ませんでした。仏教が真理だろうかキリスト教だろうかとも思いました。それで家に良く来て下さっていた住職さんに尋ねました。「私は真理を求めています。仏教を学ぶべきでしょうか、キリスト教会に行くべきでしょうか？」すると住職さんは「あなたはキリスト教会へ行きなさい」と言われました。それでもすぐに教会へ行く事もせず、真理はどこにあるのだろうかと思い、心は悶々としていました。



そんなある日、布団の中で眠っていた明け方、「あなたはわたしのもの」と言われる大きな声が聞こえました。訳は分かりませんが、これは神様の声だと確信しました。それからキリスト教の探求が始まりました。教会は見つかりませんでしたのでキリスト教書店に行って本を読みました。毎日一冊平均読みました。その店に宣教師のステルワゴン先生がいらして声をかけて下さいましたので、私は毎日たくさんの質問をしました。先生は親切に答えて下さいました。そして一か月程経った時、私に岐阜キリスト教会（同盟福音基督教会）を紹介して下さいました。そこで礼拝に集いイエス様の救いを受け入れる事が出来ました。罪の束縛から解放され喜びに満たされました。一年程後、二人の妹と共に長良川で洗礼を受けて頂きました。「あなたはわたしのもの」と言う言葉は聖書のイザヤ書43章1節の御言葉だという事を数年後初めて知りました。信仰を持っても時には信仰が揺らぐことがあります。そういう時「あなたはわたしのもの」と声をかけて下さったイエス様を思い出し信仰の確信に立ち返らされています。主を崇め感謝します。

◇投稿募集のご案内◇

皆様の原稿をお待ちしています。

毎月のCFIニュースレターの裏面に順次掲載させていただきたいと思います。

- ・すくいの体験のあかし
- ・個人的願いや祈り
- ・信仰生活のあかし
- ・主にある交わりのレポート
- ・最近気づいたことや発見したみことば
- ・CFIメッセージの感想や教えられたこと

何でも結構です。800字程度で、手紙、ファックスかメールで送ってくだされば幸いです。